

事業名 東日本大震災復興応援小金井プロジェクト

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	①制度創出：民間の災害支援協定の締結数（目標 5協定） →2つの交流協定を締結、平成25年度に1つを締結予定 ②交流人口：被災地バスツアーの参加者数（目標 300人） →159人（全4回実施・いわき市3回、鴨川市1回） ③経済効果：被災地産品の売上額（目標 6,000千円/年） →4,110千円（平成24年3月21日～平成25年3月18日） 新規雇用者の人数（目標 3人） →新規雇用1名、アルバイト7名（平成24年3月～平成25年3月） ④社会効果：被災地応援イベント来場者数（目標 5,000人） →イベント来場者数：15,000人（@3000人×5回）	4
2	市民性	店舗「夜明け市場」や毎月11日の「いちいち市」などでの産品販売の継続によって被災地の状況を伝えてきたことにより、活動、取り組みに対する小金井市民の関心の高まりが感じられた。その効果は、復興応援バスツアーの参加定員が締め切り前に満たされるようになったことからもうかがえる。また、武蔵小金井南口で開催したイベント「夜明け市場」では、「次回の開催はいつ？」と尋ねられることもしばしばあり、毎回数千人の人出が得られ、当初の目標を大きく上回る集客結果となった。	4
3	波及効果	協議会の組織体制を今後も継続して維持し、復興応援活動を続けていくことを確認している。この間、定期的に被災地復興応援バスツアーを実施し、収益的事業としてまかなう企画・体制を整えることができた。また、被災地産品の販売の継続により被災地側との交流が図られ、「交流協定」の締結に結びつけたことは、被災地からも歓迎されている。これら事業に、小金井市内の事業者やNPO法人等が連携した組織体制で取り組みを進め、地域経済の活性化、人的ネットワーク形成、社会的セーフティーネットの構築とともに、被災地を含む地域資源の再発見や魅力向上の共有促進に寄与してきたと考えられる。	4
4	継続性		-
5	マルチステークホルダー・プロセス	小金井市商工会、小金井市商店会連合会、小金井市経済課、カッセKOGANEI（NPO法人）、森反研究室（東京経済大学）の5つのセクターの連携組織が本事業の企画、運営をまかした。多様な人材、個性に恵まれての構成メンバーは、それぞれの得意分野を活かしながら被災地の復興応援に携わり、被災地産品の販売、復興応援バスツアーの実施、「交流協定」締結などの成果につながっている。また、組織体制の維持、継続は被災地側のカウンターパートからも歓迎されており、復興応援に関わる社会的貢献活動として価値、意味のある活動を続けていると考えている。	4

合計点

16

ランク

A